

平成 30 年 度

解 答 と 解 説

<適性検査Ⅰ解答例> 《学校からの解答例の発表はありません》

【問題 1】 (1)ア ④

イ ②番と④番は「あまりできなかった」と「できなかった」を答えた人数が合わせて121人で一番多く、さらに④番は「できなかった」を答えた人数が62人で一番多いから。

(2)(グループ数) 3

(理由)(例)一番人数が少ない3年生と4年生を入れることができるグループ数は26。その時点で残っているのは18人なので、 $18 \div 6 = 3$ より、すべての学年がそろわないグループ数は3。

(3)①(例)グループの下級生に分からないところを教える。

②(例)3年生を責めることは決してせず、他学年が楽しく踊っているところを積極的に見せていき、みんなで踊ると楽しいことを伝える。

(4)(種目数) 4

(理由)(例)現時点で1位の黄団との差で考える。もし赤団が午後に3種目で1位、他が3位、黄団が残りの2種目で1位、他が2位とすると、赤団465点、黄団471点で黄団に負けてしまう。しかし赤団が午後に4種目で1位、他が3位、黄団が残りの1種目で1位、他が2位でも赤団480点、黄団461点で赤団は優勝することができるから。

(5)(例)学校内で金魚やうさぎなどのペットを飼い始めて、全学年を通したエサやりやそうじの当番を作るのはどうかな。他学年同士のコミュニケーションができるし、動物の世話を通して命の大切さも学べるよ。

【問題 2】

(1)ア 40歳以下では年齢が低いほど人口が少なくなっているね。一方で、65歳から80歳くらいの人口が多くなっているね。

イ 現在の40代が70代以上となるため高齢者は増えるけど、子どもの数は減っていくので、山を逆さにしたようなグラフになりそうだね。

(2)① ア 22161(人)

イ 33.2(%)

②(例)スーパーや病院に停まるバスを走らせ、高齢者は低い運賃で乗れるようにする。

(3)①(例)布をうらがえして、中につめ物をした後、口をとじないようにぬう。

②(お手玉の個数)36(個)

(費用)1980(円)

③ ア (例)お手玉リレー

イ (例)小学生1名と高齢者2名の3人グループを4つ作る。1人1つおたまを使ってお手玉をグループのとなりのひとへ移していき、一番早くに5周

させたグループが勝ち。

<適性検査Ⅰ解説>

基本 【問題 1】 (算数：表から考える問題)

- (1) 「あまりできなかった」と「できなかった」を合わせた人数は②番と④番で同じだが、人数の内わけはちがう。「できなかった」のみを比べると②番が35人、④番が62人なので、④番の方が評価は低いといえる。
- (2) 3年生と4年生がふくまれるグループ数は26となる。残っている18人は3、4年生なしで6人組を作ることになる。
- (3)① 次の日にグループごとに発表をしているので、12日は6年生が団全体へダンスを教える、練習させることが必要となる。そのような内容であれば正答とする。
 - ② 「3年生を責めるような雰囲気になってしまいました」とあるので、その雰囲気を変えていく必要がある。3年生の意識や行動を変えたり、みんなの気持ちを盛り上げたりして雰囲気を変える方法が書かれていればよい。
- (4) 赤団が優勝するには、現在1位の黄団を抜き、青団に抜かされないようにする必要がある。確実に優勝することを考えるので、赤団が1位で黄団が2位をとった場合の点数をたしていけばよい。
- (5) 文章のポイントは健一さんが「ほかの学年と交流する機会」、^{まさみ}雅美さんの「1年生から6年生までが、協力しながら学校生活を送って」いくことである。よって、全学年が学校生活の中で関わり続けられるような機会について、自分なりの案が書かれていればよい。

【問題 2】 (社会：人口の問題)

- (1)ア 2014年の人口について、^{あいり}図から読み取れることを書く。^{あいり}愛理さんや健太さんが話している1950年や1980年の^{あいり}図から読み取れる内容を参考にすればよい。どの^{なんねい}年齢の人口が多くなっているか、少なくなっているかということが書かれていれば正答とする。

イ 直美さんが「このままいくと」と言っているので、2050年の状況は2014年の人口を元に考える。よって2014年の年齢別人口が36年分上はずれた図になる。また、40歳以下の年齢は減少しているので、このままいけばこどもは減り続けると考えられる。それらの点をふまえて、^{あいり}図の形にもふれられていればよい。
- (2)①ア 2022年の人口について、大竹さんが2017年と比べて「高齢者人口が1750人増加すると予測されています」と話している。表から、2017年の高齢者人口は20411人なので、 $20411 + 1750 = 22161$ (人)。

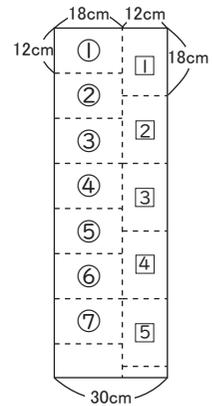
イ 高齢化率は、表より「高齢者人口」÷「総人口」で求められていることがわかる。よって、2022年の高齢化率は $22161 \div 66750 \times 100 = 33.2$ (%)。
- ② 書く内容のポイントは「高齢者を^{ちいき}地域で支える」内容であるか、「取材の内容」を参考にしているかである。取材では、大竹さんが「一人^{ひと}暮らしの高齢者が増えており、買い物や通院などで^{こま}困っている」と話している。また、現在すでに「公民館で交流会」は行われているので、それ以外で地域による支援について、自分の案が書かれていればよい。
- (3)① ほかの手順を見て、絵と説明がどのように対応しているかを参考にする。説明のポイントは①布が手順3でひっくり返されている、②つめ物が中に入れられている、③布の口をしめないように周りをぬっていることが書かれていればよい。

- ② 1枚の布から作れるお手玉の数を考える。右の図のように布を分けると、

$$95 \div 12 = 7.91\dots$$

$$95 \div 18 = 5.27\dots$$

より、1枚の布から最大で $7+5=12$ (個)のお手玉を作ることができる。次に、2000円以内で買える布の枚数は、最大で $2000 \div 420 = 4.76\dots$ より4枚である。4枚買った場合、 $4 \times 12 = 48$ (個)の鈴が必要となるが、5ふくろ買うと $(420 \times 4) + (180 \times 5) = 2580$ (円)で予算をこえる。布3枚の場合、 $3 \times 12 = 36$ (個)の鈴が必要となり、鈴は4ふくろ必要になる。このとき、 $(420 \times 3) + (180 \times 4) = 1980$ (円)となり予算に収まる。よって、お手玉は36(個)で費用は1980円となる。



- ③ レクリエーションについて、話し合いの内容を読むと①お手玉を使った遊びであること、②拓也さんたち4人のグループに高齢者8人来ることがわかる。お手玉の個数は自由とされているので、①と②の条件を満たした内容であればよい。解答例のようにチームを分ける場合は高齢者と子どもが混ざるように人数配分に気をつける。



★ワンポイントアドバイス★

計算問題や表の読み取りだけではなく、自分の考えを書かせる問題が頻出している。問題文や資料から解答のポイントや条件について確認する。

<適性検査Ⅱ解答例> 《学校からの解答例の発表はありません》

【問題】

(1)

アンケートで一番多く票を集めた、長なわとびが良いと思います。こうたさんが言っていたように、クラスみんなが気持ちを一つにしてがんばることができたので、学級しょうかいのテーマにふさわしいのではないのでしょうか。また、他の三人の、みんなで協力して楽しかったという意見も、長なわとびのテーマで書けると思います。

(2)

クラスの思いを一つに

先日、全校で競い合う長なわとび大会が行われました。どのクラスも練習からとてもがんばっていたので、私たち六年一組も負けられないと気合が入りました。

当日を迎えるまで、登校時間を早めての朝練や、休み時間の練習をみんなで毎日がんばりました。時には担任の先生がアドバイスをくれたり、体育の時間に長なわとびのコツについてのビデオを見せてくれたりと、先生方からもおうえんをいただきました。

そして迎えた長なわとび大会当日。天気もよく、練習の成果をはっきするには最高の日でした。

いよいよ六年一組がとぶときが来ました。初めはスムーズでしたが、だんだん引かかる回数が増えてきました。しかし、私たちは、みんなで決めた「何があってもあせらない」という決まりごとを胸に最後までやりきりました。

優勝することはできませんでしたが、とび終わったときのみんなの笑顔はとてもまぶしく、宝物です。「思いを一つにできたこと」これが私たちにとって何よりも収穫です。

<適性検査Ⅱ解説>

【問題】（国語：条件作文）

- (1) アンケート結果や、四人の意見をふまえてまとめよう。どのテーマを取り上げてもよいが、なるべくみんなの意見を取り入れられるようにすると良い。
- (2) (1)の答えをもとに、学級新聞の記事と見出しを書く問題。登場人物や出来事も想像して書く。自分が学校で体験したことを思い出し、具体的に書く。また、人目をひくわかりやすい見出しを考えよう。学級新聞なのでそれにふさわしい文体で書くことにも気をつける。



★ワンポイントアドバイス★

学級紹介の下の、おしらせという記事を読もう。見出しや文体などが参考になる。

<市立太田中学校 作文解答例> 《学校からの解答例の発表はありません》

【問題】

選んだ資料 AとC

題名 「決めつけずにちゃんと知る事の大切さ」

私は、AとCの二つの資料から、これまでライオンやブチハイエナに抱いていたイメージが大きく変わりました。このことから、イメージや見た目ですぐに勝手に決めつけてしまうのではなく、相手のことをちゃんと知ろうと考えました。

私はこれまで、ライオンやブチハイエナのことを、どうもうで乱暴だと思っていました。しかし、Aの資料によると、ライオンはプライドという家族のような存在があると分かりました。また、Cの資料からはブチハイエナがとても仲間想いなのだということが分かりました。自分が思っていたイメージと異なり、優しい心や協力する文化を持っていたのです。このことに気が付いたとき、私は自分の失敗を思い出しました。

私は小学四年生の時に、クラスみんなと一緒に転校生を避けていました。その転校生はいつもくつ下に穴があいていたり、遅刻していたり、とてもだらしなかつたのです。ある日、担任の先生からその転校生の家がとても大変だということを聞かされました。私は何も知らずに、だらしないと決めつけ、傷つけてしまったことを今でも反省しています。

AとCの資料とこの体験が結びつき、改めてちゃんと知る前に決めつけてしまうことの怖さ、ちゃんと知る事の大切さを感じました。これからもこの教訓を忘れないようにしたいです。

<市立太田中学校 作文解説>

【問題】（国語：条件作文）

まずどの資料を選ぶかを決める。二つの資料に共通するところや、違うところを探して書くといい。模範解答では、共通するところに注目して書いた。資料を選び、注目する点が決まったら、それに合わせた自分の体験を考えよう。また、題名は自分の一番言いたいことを、簡単にまとめたものが良い。



★ワンポイントアドバイス★

作文につける題名は、その作文で言いたいことが伝わるようなものが良い。まとめの部分で言っていることを、簡潔にまとめて題名をつけよう。